

養父市立大屋小学校

令和3年度 学校評価

(学校自己評価・学校関係者評価)

令和4年3月14日

1 本年度の学校教育目標

伸びよ 豊かに たくましく ～ 未来の郷土を拓く 大屋っ子の育成 ～

2 本年度の学校重点目標

(1) 大屋を誇りに思う児童の育成(地域連携、開かれた学校づくり、小中一貫教育の推進) (2) たくましく生きる力の育成(確かな学力、豊かな人間性の育成、食育を通したふるさと教育)
 (3) 安全安心な学校づくり(防災・安全教育推進、人権文化の構築、学校業務改善、新型コロナウイルス感染症対応) (4) 教職員の資質向上(食育指導の充実、道徳教育の推進、生徒理解に基づく学級経営)

3 学校自己評価結果 (A 良好 B 概ね良好 C やや努力を要する D 一層の努力を要する)

| 分野 | 評価項目・取組内容 | 達成状況 | 学校の取組状況・改善の方策 |
|--------------|-----------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校運営 | 開かれた学校づくり | やや努力を要する | ・学校だよりやホームページ、ふるさとだより、食育だより等に児童の活動の様子を掲載し、保護者だけでなく地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことができている。 ・授業参観日やオープンスクールが、長引くコロナ禍により十分できなかった。また、定期的に行っていた、わはは牧場、かいこの里、天滝ゆず組合等との地域連携学習活動も低迷している。 ・中止した2月の授業参観をオンデマンド配信にして公開し、好評を得ている。 ・コロナ禍における更なる保護者、地域連携を工夫する必要がある。 |
| | 危機管理体制の整備 | 概ね良好 | ・防災計画に従って避難訓練等を実施し、教職員の危機対応能力の向上を図った。 ・授業時間以外の訓練も含め年間2回の避難訓練を実施した。特に地震に対する危機意識を高める集会や研修を実施した。(コロナ禍により1回できなかった。通常計画は3回予定。) |
| | 教職員の資質向上 | 良好 | ・食育指導について計画的に授業研究を行い、講師を招聘し、授業力の向上に努め、食育研究大会を成功させることができた。栄養教諭による食育指導は、20回を超えた。 ・教科の特性を超えて、中学校ともテーマを統一し、研修内容をより深化させていく。 |
| | 勤務時間の適正化 | 概ね良好 | ・定時退勤日はお互い声をかけ合い、早めの退勤を心掛け、勤務時間の適正化を図っている。 ・「家族の日」として、家庭で過ごす時間を大切に、業務改善を推進していく意識が高まっている。 |
| | 校種間連携(小中一貫教育) | 良好 | ・こども園の授業参観、巡回相談などに参加し、積極的に情報共有を図っている。 ・小中合同授業研究会(道徳)や授業交流(参観)など積極的に行い、意見の交流ができている。 ・今後も「授業改善部会、つながり部会」の小中合同2部会にしぼり活動の充実を図る。 |
| 教科及び教科外の学習指導 | 基礎基本の定着と個に応じた指導 | 概ね良好 | ・めあての提示、授業の振り返りに取り組んだ。専門の講師を招聘し、書く力を伸ばす授業をさらに展開させたい。 ・ドリルタイムを増設し、計算力向上、基礎学力向上を図っている。 ・学習意欲の向上を図るため、放課後がんびりタイムを活用し、よりつまずきの解消に取り組んだ。 ・学習理解の遅い児童には、個別指導を行い、学習意欲の向上を図った。 |
| | 人権・道徳教育の充実 | 概ね良好 | ・福祉施設や社会福祉協議会との連携により体験学習から、生命の尊さや相手を思いやる心、自尊感情などを高めることができた。今後も継続して取り組んでいく。 ・道徳が、特別の教科「道徳」となり、よりよい道徳授業を工夫・改善するため、講師を招聘し、小中合同で授業研究に取り組んだ。更に、全体研修として授業力の向上を図る。 |
| | 読書活動の推進 | やや努力を要する | ・読書ボランティアの方に「お話プレゼント」として、毎月読み聞かせしていただいている。 ・担当者を中心に、図書室等の環境整備に取り組むことができた。また、教職員による読み聞かせなど、読書ボランティア以外でも啓発を進めている。 ・家庭での読書習慣が課題である。読書の時間は学校では限られるので、「そうあんくんの日」などを活用し、家庭との連携を大切に更なる推進を図っていく。 |
| | キャリア教育の充実 | 概ね良好 | ・キャリアパスポートの作成に取り組んでいる。 ・地域の人材を生かして、多くの方との出会いを大切に、更に活動を充実させたい。 ・食育を通じて、様々な人に学び、地域の特色を誇り思うキャリアを形成を進めていく。 |
| | 情報教育 | 概ね良好 | ・小中合同で「SNS利用の6か条」を作成し、家庭と一体となり取り組みを進めている。 ・臨時休業中におけるオンライン通信、学習などにタブレット端末活用を充実させた。 ・タブレット端末の有効活用等について、校内研修の充実を図っていく。 |
| | 特別支援教育 | 概ね良好 | ・特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者と連携して、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行った。 ・合理的配慮やユニバーサルデザイン等について、和田山特別支援学校の講師を招聘したり、研修会に参加したりして、専門性の向上を図っている。 |
| | あいさつ・掃除 | 概ね良好 | ・生活指導担当と児童会が連携し、あいさつ運動を行い、毎朝気持ちの良い声が響いている。 ・地域でのあいさつは、自分からする児童は少ないようである。学校ではできている。 ・掃除の時間に一生懸命掃除する心情と態度の育成が今後の課題である。 |
| | いじめ防止 | 概ね良好 | ・「いじめは絶対に許されない」という共通理解のもと指導に当たっている。また、好ましい人間関係、学級経営に取り組んでいる。 ・児童の細かな変化を見逃さず、全職員が連携して情報交換等を密に行える指導体制の充実を図っている。 ・児童同士、良いところを見つけ、褒めあう学級指導を続けている。 |
| | 体罰防止 | 良好 | ・職員会議や研修で呼び捨てをしないなどの具体例を示し、実践的指導力の向上を図った。 ・研修資料「NO!体罰」を活用し、体罰に至るターニングポイントの確認及び未然防止の徹底を図った。 |
| | 児童理解 | 概ね良好 | ・児童理解を踏まえた学級経営に向け、毎月、生活指導委員会を開き、全職員共通理解の下、指導に取り組んだ。また、一人一人きめ細やかな対応に努めた。 ・問題行動発生時には、直ちに教職員情報共有を図り、一丸となって対処している。 |
| 生徒指導・その他 | 不登校対策 | 概ね良好 | ・毎月ふりかえりカードを実施し、担任を中心に組織的な指導体制で取り組んでいる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、各関係機関との連携を図っている。 ・現在、不登校児童は在籍しないが、登校しぶりの児童が数名おり、継続的な指導を進めていく。 |
| | そうあんくんの日 | 概ね良好 | ・ノーマディアデーとし、お薦め本を設定して、読書・自主学習の推進に取り組んでいる。 ・取組カードに、お手伝い等の記録をし、児童の意識向上、保護者の協力を促している。 |
| | 新型コロナウイルス感染症対応 | 良好 | ・三密の回避を心掛け、マスク・手洗い・消毒・検温など、日々習慣づけて取り組んだ。 ・感染症対応による臨時休業中には、タブレット端末によるオンライン自宅学習を行った。 |

4 総合的な学校関係者評価

2年続くコロナ禍で、感染防止や3密を避ける制限の中、様々な対策をとりながら、学校が一丸となって参観日や運動会などの学校行事に取り組んできたことは評価できる。ただ、学校へ行く機会等がへり、学校の様子が分かりにくかった点には、何らかの工夫が必要であろう。「食育」を柱に外部講師や地域の人材を生かしてふるさと学習や校外学習に取り組み、研究発表大会を盛会に終えたことは、児童の成長に大きく役立っている。そして、先生と児童、保護者との関係も良好で、いじめや不登校にもきめ細やかに取り組み、不登校児童がゼロであることも評価できる。児童は学校や地域の行事にも元気に参加しており、生き生きとした姿を見せている。大屋の恵まれた自然の中で、明るく素直で伸び伸びと、たくましく児童に成長している。今後も続くコロナ禍ではあるが、地域コミュニティの中心として、学校の役割を工夫改善し、地域とともに歩む学校づくりを継続していただきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

| 学校自己評価の適切さ |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○定期的に発行される学校だより、学級通信やホームページで、児童の様子を垣間見ることができるが、発行回数が少ないように思う。 ○コロナ禍で低迷している地域との連携活動であるが、できる限りの交流を進めており、先生方の苦勞と努力がうかがえる。また、食育集会や給食指導、福祉体験学習などの交流、地元の書家を招いた習字の授業など、講師招聘をできる限り実施し、実践できたことも有意義であった。 ○コロナ禍で学校を訪れる機会が減っているが、2月のオンデマンド授業参観は、配信期間中、いつでも何回でも見ることができ、とてもよかった。 ○防災、防犯に対し、計画的に取り組まれている。 ○自然災害、近年は、梅雨時期の大雨、冬季の大雪など気になるが、中学校と連携して保護者連絡体制などを的確に運用し、事故の未然防止・対応に当たっているため安心である。 |
| ○食育の活動を中心に積極的に外部講師を招聘したり、給食センター栄養教諭と連携したりして、資質向上に努めている。道徳は中学校とも合同で研修する機会があり、努力がうかがえる。 ○生活指導の面で、児童理解や学級づくりの指導力向上を継続していただきたい。 ○先生方の長時間労働は、今後も改善していかなければならない課題である。先生への負担に偏りがないように、バランスのとれた勤務態勢が大切であるし、保護者の理解と協力も重要である。教職員同士、声を掛け合い、早く帰宅して「家族の日」を充実させてもらいたい。 |
| ○こども園園児の運動会参加ができなかったが、コロナ後も無くさず継続していただきたい。 ○小中連携の取組、6年生登校、出前授業、授業参観交流、合同道徳研修など盛んに交流できておりよいと思う。一小一中のよさを更に発揮して、連携した教育を進めてほしい。 |
| ○小中一貫教育で授業規律づくり、授業の振り返りの取組を継続されている。合同道徳研修も継続し、他教科とも関連付けて、9年間の系統的な取組を推進していただきたい。 ○放課後がんびりタイムは、参加児童も楽しみにしており、今後も継続していただきたい。 ○「そうあんくんの日」などを活用し、家庭学習を含め保護者と連携して基礎学力の向上に努めていることは、学校・家庭・地域が連携して教育を進めるよい機会となっている。 ○放課後の個別指導は、先生方の負担が大きいのと思われるが、ありがたい取組である。 |
| ○社会福祉協議会と連携し、車椅子体験や点字教室、目の不自由な方を招いての交流、一人暮らしのお年寄りへの手紙など、福祉教育を進められ、よい活動ができている。 ○コロナによる臨時休業で授業の日数が減ったが、教科の勉強だけでなく、福祉教育や人権教育に取り組まれたことはとても評価できる。 |
| ○読書を習慣づけることは難しい社会環境の中、学ぶことの基本である読解力や書物から感動する喜びを得るため、今後も継続して、読書活動に努力をお願いしたい。 ○子どもたちにもネット環境やSNSなどが浸透し、活字離れが進む中、先生方を中心に読書啓発に取り組んでおられる。今後も読み聞かせや「そうあんくんの日」などを生かして、保護者や地域が学校に協力していくべきだと考える。 |
| ○食育の実践を通して、地域の食材や文化を学び、ふるさと大屋を誇りに思う児童が増えている。また、食育への地域の協力も充実しており、今後も支援していきたい。 ○教師は、子どもたちの一番身近な職業である。その魅力を十分伝え、将来の職業選択に教師を目指す子どもが増えるとうい。 |
| ○GIGAスクール構想が始まり、先生方のICT活用能力向上が大変であると思うが、十分研修を積んでいたがよい。休校時のタブレット通信学習は、とてもよい取り組みであった。 ○SNSによる犯罪が激増している。低学年からの情報モラル学習が重要である。 |
| ○特別支援を要する児童に対する教育的ニーズに応じた細やかな取組は、十分成されている。また、各関係機関と連携を密にして、特別支援教育が着実に進んでいる。 ○学校生活を共に送る児童には、障がい個性であることの共通理解と、共に学ぶ場の設定を今後もお願いしたい。 |
| ○学校を訪問するといつも、児童は気持ちの良いあいさつができている。 ○地域でのあいさつは自分からする子は、まだ少なく感じる。しかし、声をかけると、しっかりあいさつしてくれる。 ○掃除は、奉仕の基本である。家ですることは少ないので、今後も学校では続けてほしい。 |
| ○大屋小学校では、重大ないじめ事案はないと聞いている。いじめの芽が小さい内に対処している成果ではないかと思う。「いじめは絶対に許されない」という人権教育を引き続き進めてほしい。 ○保護者アンケート結果に、「素早い対応」が不十分との声も聞かれる。土台となる学級づくりの中で、保護者との連携を密にし、先生と児童、児童と児童の温かい関係づくりを進め、思いやりある仲間づくりを続けていくことが重要である。 |
| ○児童の問題行動は、話して聞かせ、論じて育てるやり方が大切であり、結果をあせらず、ゆっくと落ち着いて対処する心の余裕が必要であり、そのための研修を深めてほしい。 ○問題行動には、先生と保護者が同一歩調で取り組むことが大切である。 |
| ○保護者は、毎月の生活アンケートの実施とその活用、日々の観察などの大切さを理解し、先生方に協力して、子どもの心理を掴むことが大切である。 ○温かい学級づくりが一番の基本であり、その研修も続けてほしい。研修が教科指導やICT機器の活用に偏らないう工夫していただきたい。 |
| ○不登校の児童がいないことは先生方の取組のおかげだと思う。また、保護者の家庭教育、地域の教育力の成果でもある。今後も、みんなで努力し実践を続けなければならない。 ○登校しぶりの児童が数名増えたと聞く。不登校にならないよう、保護者と連絡を密にし、温かい学級づくりも進めながら、児童理解に努めてほしい。 |
| ○養父市全体での取組であり、共通の目標として「そうあんくんの日」は、定着している。 ○取組カードは、目的意識をもたせるのに有効であるし、保護者も取組の確認ができありがたいので、今後も継続活用していきたい。 ○先生方の日々の感染予防、限られた中での学習の工夫など、感謝することばかりである。 ○コロナ感染者等への誹謗中傷など、親子で考え、防止していかないといけないと感じている。 |